

真宗佛光寺派  
大阪教区・  
別院だより

# 大悲

第56号

令和7年(2025年)  
1月1日 発行



ひらパー越しの大阪の街（枚方市、ひらかたパーク）

親鸞聖人が関東でお住まいとされた「稲田の草庵」（茨城県笠間市）から「本山佛光寺」（京都市下京区）まで、全行程約六八〇キロを二十二分に分けて歩きました。

親鸞聖人は六十歳の頃に関東を離れ、約三年かけて京都に戻られました。帰洛の目的については諸説ありますが、京都へ帰るということだけが目的であれば一カ月もかかりません。しかし、帰洛の途中に一切経校合（いっせいきょうごう）に参加され、また立ち寄った所でお念仏の教えを説かれました。

親鸞聖人は、師である法然上人との出遇いを通して、「ただ念仏」という教えに出遇われ、この教えをよりどころとして生きていかれました。帰洛にあたって、お念仏の教えをその土地で暮らす人々とともにいただかれ、「いま念仏」申す生活を大切にされていかれたのでしょうか。

私自身も、親鸞聖人と同じ街道、同じ仏道を歩みながら、「念仏」に照らされ続けた日々でした。

（隅谷 俊紀）

# と う ひ が ん 到 彼 岸



「これだけは聞いて」

浄方寺 かどかわ たかし 門川 崇志

入れますが、そうでないものは素直に受け止めることができません。

## 昔の人だから

昔の人は科学が発達していなかったから西方の浄土に素直にうなずき、一心に念仏していたと考えるかもしれない。でも案外そうでもなさそうです。

鎌倉時代の親鸞聖人と弟子の唯円とのエピソードが残っています。

ある時、唯円が「念仏や浄土という有り難い教えに出遇わせていただきました。でもいつでも躍り上がるほど念仏をよろこべてはいませんし、一刻も早く浄土に往生したいという思いも湧いてきません」と聖人に自身の真剣な悩みを打ち明けました。

これに対して聖人は「唯円、おまえもか。私も一緒だ」と答えました。おそらく唯円は「そんなことでは駄目だ」と聖人に一喝される覚悟で告白をした

のでしようから、この返答に驚きと安心を感じたのではないのでしょうか。

聖人は続けて、「最初から、この私が素直に浄土や念仏の教えを受け入れるとは仏さまは思っておられない。むしろそんな凡夫のために、念仏の声となつて私たちに寄り添ってくださいているのだから、こんなたのもしいことはない」とおっしゃいました。

## お釈迦さまのよびかけ

お経には「西方、すなわちいのちの沈みゆく方向に極楽浄土があり、そこでいま現在、阿弥陀さまが念仏のみ教えを響かせておられる」とあります。

「これだけは聞いて」というお釈迦さまのよびかけに、この私のいのちの苦悩を包み込む、浄土という安らぎの世界を感じさせていただけます。

「浄土ってほんまにあるんですか。どうしても信じられません」。よくこういう質問を受けます。二千五百年前に実在したお釈迦さまの話はまだ聞けるけれども、阿弥陀仏とか浄土とかいう話になった途端、ただの物語のように聞こえ、現実として受け入れられなくなるといのです。

私たちは、目に見えるもの、人間の知恵で論証できるものは抵抗なく受け



# 如にょ是ぜ我が聞もん

## 無明やみの闇

九州教区 清立寺 藤代尚師ふじしろ ひさし



令和六年十月二十七日、大

阪別院報恩講が厳修されました。ご門主が引用された高僧和讃「尽十方の無礙光むげいこうは無明のやみをてらしつつ 一念歡喜するひとを かならず滅度にいたらしむ」のお味わいをご法話いただきました。

### 仏さまの眼

まず「尽十方の無礙光は」とあります。四方八方という言葉があるように、私たち凡夫が見渡せる範囲は八方までですが、仏さまの眼は十方を

見通されます。皆それぞれ性

別・職業・思想の違いはあっても仏さまの決して誰も見捨ててることのないみ光を親鸞聖人は無礙光と示されています。次に「無明のやみ」ですが、これは自分の考えに固執して他人の言葉に聞く耳を持たず迷いの中をさまよう様子です。相手が間違っていて自分は常に正しいと思っている。そんな愚かな自身に気付かされ、それでも仏さまに見捨てられないと知られるとき、大きな喜びを感じると親鸞聖

人はお示しく下さいました。

### 母の願いに出遇う

私が二十歳の時、父が亡くなり、母と二人でお寺をお守りしてきました。初めはどこのお宅にお参りすればいいのかも分からず母に頼ってばかりでした。やがて段取りを覚えて自信がついてきた私は、変わらず指示を出してくる母のことを今度はうるさく思うようになっていました。

数年後、母が癌になり余命半年と言われ入院することに

なりました。付き添うため毎日病院に通っていましたが、ある日「明日は来なくていいよ」と言われました。明日、目が覚めるかどうかわからない心細く不安な状況でも私の身体を気遣ってくれる母の気持ちを持ちを有り難く感じました。そんなとき、今まで散々母に反抗してきた我が身に気付かされ頭がさがりましたと藤代師は話されました。

### 聴聞して

自らの生活の場が大切なみ教えとの出遇いの場であるということ、また仏さまの眼は一切衆生に向かつて拡がるみ光であるとともに、次元を超えて無明の闇を生きる私に向けられた眼であると聞かせていただきました。

(葦名彰 記)

# 大阪探検

## リニューアルした通天閣



見上げる通天閣



跳ね出し展望台



大阪の名所の一つとして知られる新世界。その中心部に建つ展望塔として、明治45年に初代通天閣が誕生しました。しかし、昭和18年に間近にあった映画館が火災を起こし通天閣も巻き添えに。さらに戦時中の金属類回収令で供出させられ、解体されてしまいました。戦後しばらく新世界は何もない街でしたが、住民運動が起き復興のシンボルとして昭和31年に再建されました。現在は平成29年に大型リニューアルが完了し、「おもしろい」をテーマに新しい通天閣が楽しめます。

### 低層階（地下1〜地上3階）

通天閣は低層階と、中間部がエレベーターでつながれている高層階にわかれています。地下1階から入場してチケットを購入し、エレベ

ーターで2階まで行くと低層階エリアに到着します。主にアトラクションがあり、3階から地下1階まで一気に滑り降りる、らせん状の滑り台「タワースライダー」や、3階屋上をハーネス（命綱）を装着し周回したり、タワー中間部よりダイブができる「ダイブ&ウォーク」などがあります。

### 高層階（4〜5階）

高層階へは別のエレベーターで一気に昇ります。こちらは展望台となり、5階に到着すると大阪が一望できます。さらに5階屋上の「天望パラダイス」は、周りがフェンスのみで地上95mのスリルと感動が味わえます。また、ここには跳ね出し展望台があり地上約90mから真下を

見下ろす体験はおすすめ。詳しくはホームページでご確認ください。  
（寿栄松正顕）

# ごえんさんを訪ねて

さいこうじ 西光寺 (堺市北区) ほんざわ しほ 榛沢 志保 住職



前任職が平成9年6月に急逝され、会社に勤めていた住職は西光寺を継職するかどうか悩んでおられました。

しかし急逝から葬儀までの短い間に総代総出の哀願を受け、継職を決意されたそうです。そして平成12年に継職され、西光寺第21代住職とされました。

## とにかく必死に

継職を決意してから改めて読経の練習に取り組みました。なかでも特に節のあるお勤めは難しく組内のご住職に指導してもらいましたが、當時を振り返ると「何事にも余裕がなくしんどかった」とお話しされました。

それから24年が経ち、最近では門徒さまがお勤めのあとに話を聞いてほしいと待っておられ、プライベートな話もされるので、長時間おしゃべりすることもあります。それが楽



西光寺本堂内陣

しく、そして嬉しく、住職としての居場所ができたように感じているそうです。

## 忘れられない人

「住職にとって忘れられない出来事は？」という質問に、二人の門徒さまの話がされました。

一人は謡曲うたばかの先生で、歌はもちろん声も素晴らしい門徒さま。住職として初めてのお参りで緊張し過ぎたため、震えた声で正信偈をお勤めました。

そしてお勤めが終わると「その声やったら大丈夫。頑張りなさい」と言葉をかけてもらえたそうです。その門徒さまの声が今でも忘れられないと話してくださいました。

そしてもう一人は住職が小学生だった時、先生だった門徒さまです。とてもはつきりものを言う怖い先生だったので、お寺のことについて何かいわれるのではと緊張しながら伺ったところ、その思いとは裏腹に住職を継職したことを大変喜んでくださったそうです。

西光寺住職として門徒さまと寄り添いながら法務に取り組み、はつらつとしたお顔が印象に残る取材でした。

(玉出宗順)

■西光寺(さいこうじ)

〒591-8022

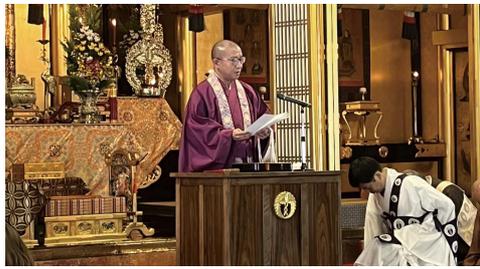
堺市北区金岡町2434

電話 072-252-2690

Fax 072-252-2690

# 大悲トピックス

## ■大阪別院報恩講



①お勤め ②御親教

10月27日、真覚門主御親修のもと報恩講が厳修されました。今年もお稚児さんの草鞋直そうかいしがあり、和やかな法要となりました。お勤めに続いてご門主より御親教（おことば）を賜り、藤代尚布教使の法話を聴聞しました。引き続き、別院門徒お二人がご門主から帰敬式を受けられました。

大阪教区物故者追弔会では、教区寺族の方々もお参りくださり、あらためて追弔の意を確かめました。

（大阪別院輪番 葦名彰）

## ■大阪別院報恩講に向けた仏具のおみがき

10月20日、大阪別院の報恩講前に教区僧侶が仏具を磨きました。

その横でかわいいお稚児さんが報恩講本番にむけて草鞋直しの練習を一生懸命してくれている姿に癒され、励まされたことでした。

（門川崇志）

## ■法友会研修会

12月3日大阪別院にて「今あるいのちの救い」と題して、滋賀県大津市の光明寺住職で、大津市民病院名誉院長の片岡慶正師にご講演いただきました。

長年医師として、医療の側から見た「生老病死」と仏教の立場での違いを、様々な角度からお話いただきました。

「見える命（いのち）は見えない寿（いのち）によって支えられている」などプロジェクトで十数枚のオリジナル画像も作成され、わかりやすい研修会となりました。

（長田 護）

## ■懇志御礼

三重県いなべ市 東光寺様

真宗佛光寺派  
**如来寺**  
気がつけばいつも  
お蔭さまのなか  
芦屋市川西町8-6  
住職 藤谷 信道

表具 **八木米寿堂**  
御本尊掛軸修理 絵画、書の表装  
〒600-8073  
京都市下京区柳馬場通仏光寺上る  
tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

御本山 **近** 用達  
株式会社 **川勝法衣店**  
フリーダイヤル 0120-075-055  
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入  
電話 (075) 371-0367(代)  
FAX (075) 371-5088

お墓なんでも相談センター  
永遠の想いを像に還るお手伝い  
**ヨシザワ**  
株式会社 吉澤石材工業所  
フリーダイヤル 0120-49-1482

創業100余年・お墓の専門店  
**石留石材** 株式会社  
土日祝もご相談いただけます（8時～17時）  
0120-53-5578  
■本社：大阪府藤井寺市津堂2丁目9番29号

浜屋は関西最大級の  
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の  
専門店です。  
やすらぎの  
世界を創る **浜屋**  
通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル  
お問い合わせ  
お申し込みは **0120-1616-94**  
●受付時間/午前10時～午後6時30分

# だいひ 絵日記

- 10月17日(木) 大悲の会編集会議 (第56号読み合わせ)  
10月20日(日) 佛青懇和会研修会 (仏具おみがき) ①  
10月27日(日) 大阪別院報恩講  
11月5日(火) 大悲の会編集会議 (第56号読み合わせ)  
11月19日(火) 大悲の会編集会議 (第56号読み合わせ)  
12月3日(火) 法友会研修会 (今あるいのちの救い、講師：片岡慶正師) ②  
12月6日(金) 佛青懇和会研修会 (宗教活動以外の集いと寺行事開催における協力出来る点、または、その際の課題や工夫について、講師：高橋淳師) ③  
12月13日(金) さつき会研修会 (腕輪念珠を作りましょう、講師：中井賢隆師) ④  
12月25日(水) 大悲の会編集会議 (第56号発送作業・第57号内容検討)



協賛

**佛青懇和会**

大阪教区の青年会  
(会長：松野正暁)

協賛

**さつき会**

大阪教区の坊守会  
(会長：中井秀子)

協賛

**法友会**

大阪教区の住職会  
(会長：善本和彦)

## ■誌面広告の募集 (『大悲』発行は広告によって支えられています)

企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。

1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

## ■定期購読の受付 (ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい)

『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部単位でお願いいたします。

## 法要のご案内

### 大阪別院修正会

1月2日(木)正午

### 大阪別院彼岸会

3月17日(月)午後2時

法話:玉出 宗順 師(光福寺)

3月20日(木・祝)午後2時

法話:葦名 彰 師(妙圓寺)

3月23日(日)午後2時

法話:隅谷 俊紀 師(高照寺)

## お寺の掲示板

照らされて

はじめて

影に気づく

照らされないと

影があることにすら

気づけない

## 編集秘話

「年はとる物じゃなくて、頂く物なのよ」この言葉は高橋書店の名言大賞受賞作品です。この「頂く」という言葉は「頂戴する」と言い換えられます。「頂戴」は頭の頂きに仏さまの教えを乗せることを意味します。つまり年齢を重ねることは自分の思いを超えた命を頂戴し続けることなのだと聞かせていただきました。(玉出)

## 編集後記

先日、ある原稿を書き、何度も何度も見直したあと、他の方に校正をお願いしました。すると「スケジュール」を「スケージュール」、「ウォーキングのために」を「ウォーキングために」と書いているとのこと指摘を……。 「自分の文章は正しい」という思い込みが、自分で間違いを見つける邪魔をしているのですね。(編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第56号(冬号)  
令和7年(2025年)1月1日発行 (発行部数2200部)

発行:大悲の会

事務所:佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話06-6691-1362

郵便振替口座:口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会

長田 譲(会長)

隅谷 俊紀(副会長)

寿栄松 正頭(会計)

玉出 宗順(会計)

門川 崇志(監事)

佐々木 太一

葦名 彰

中井 翔隆